



研究者、研究機関の 評価対象としての論文



Tokyo Tech

「挑戦する日本の学術誌」

研究・イノベーション学会

第36回 年次学術大会 企画セッション(2021.10.29)

東京工業大学 情報理工学院

主任URA 原田 隆



Tokyo Tech

ジャーナル駆動型リサーチ*の時代、

「国内学会誌が今後どうあるべきか」

「学術コミュニケーションの多様性、インパクトの
多次元性を考えたい」

「健全な学術研究の発展のため、試行錯誤を積み重ねて挑戦する研究者の活動を知ってほしい。」

* 佐藤郁哉「誰にとっての質、誰にとっての卓越性？」

青島矢一編「質の高い研究論文の書き方」54 - 72頁（白桃書房、2021年）所収



Tokyo Tech

問題意識

良い論文ってどんな論文？

(たくさん読まれている論文が良い論文？)

「見える」ところだけで評価することは
学術研究の進展を阻害していないか？

国際ジャーナル掲載論文 = 良い論文？

論文発表は科学者にとって 最も重要で困難な仕事 (大隅良典 東京工業大学 栄誉教授)

(水島昇「科学を育む 査読の技法+リアルな例文765」羊土社、2021年、巻頭言。)

評価対象としての論文

- 学術分野でのグローバル競争の激化
- 学術研究と社会との関係の変容
(例: 「科学技術基本計画」 -> 「科学技術イノベーション基本計画」)

比較による順位付、それにもとづいた資源の投入を行うための評価指標として論文以上のものがない。

測定可能

社会的合意

共通性

検証可能

大学の実績評価事例

<国立大学への運営費交付金の配分>

成果を中心とする実績状況に基づく配分」を導入（R元～）→ 成果に係る客観・共通指標に実績状態を相対的に把握し、これに基づき配分。
国立大学を「世界水準型」「特定分野型」「地域貢献型」に分類。

東工大：「世界水準型」

3つの戦略の1つとして「最先端新・融合領域を開拓し、イノベーションを牽引する『世界の研究ハブ』の実現」を設定。次の3つを評価指標とする。

「常勤教員1人あたりの1年間論文数の平均」「Top10% 論文割合」、「研究ユニットの獲得研究費」※InCites(クラリベイト・アナリティクス)を利用

東京海洋大学：「特定分野型」

3つの戦略の1つとして「海洋科学技術研究における中核的拠点形成」を設定。次の4つを評価指標とする。

「科研費採択率」「企業との共同研究数」「Web of Science 採録論文に占める国際共著論文の比率」「共同利用施設等を利用した外部資金獲得実績」

大学の実績評価事例

<研究大学強化促進事業> (文部科学省)

本事業は、大学等の研究機関において論文の世界的シェアが下がっており、国際競争力の向上が課題となっていることから、世界にも通用するような優れた研究活動を行う機関を増強し、日本の研究力の強化を図ることを目的としている。

評価項目

- ・「競争的資金等の獲得状況から見た研究競争力の状況」 (指標数 6)
- ・「**国際的な研究成果創出の状況**」 (指標数 2)
- ・「産学連携の状況」 (指標数 2)

指標 (算定式)	視点
Q値 被引用TOP 10%論文数 / 全論文数 (過去5年間の平均)	質の高さ
国際共著論文の割合 国際共著論文数 / 全論文数 (過去5年間の平均)	大学の国際的な研究活動の活発さ